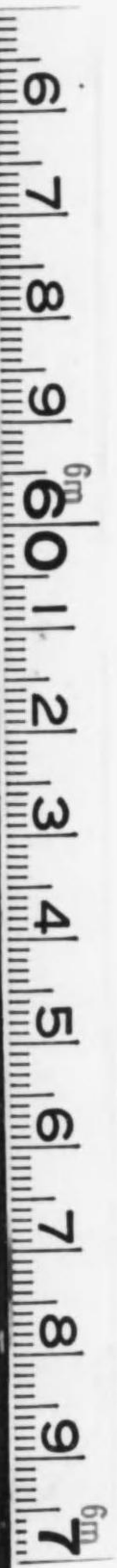


翁  
弓矢之合

特 257  
707



始







シテ上  
あぢかきとては

日  
あぢかきとては

シテ上  
あぢかきとては

日  
あぢかきとては

シテ上  
あぢかきとては

日  
あぢかきとては

日  
あぢかきとては

千年乃も猶り。萬葉集

たつ。又たむだいの池も

甲なれへかへてかへり

天下泰平國土安穩の

御祈禱あり。あまの

翁

日  
あぢかきとては



みぎんをれつ。弓矢の祝ひかかちよびいひ  
まじふ。いうよ友やあました。かゝる  
目出度清祭禮のみぎんあれた。  
弓矢乃祝言りてれし

<sup>ツシテ</sup>葉の弓ハコよもぎの矢の政。律又目出  
たかりきあら。有難やカ何ら。有難や  
いばやさば祝おも。げいさうぐらや

あせ偽りきへ。弓張月乃ちんも。  
葉の弓ハコよもぎの矢の政。律又目出  
寄らん。武士の八十軍治川。  
の儀カケリまじふ。水よきの月。  
あされ目出つらあま。あれまじふ  
御代の時ノトキとらノトキ也ノトキ  
釋きつら。大徳の弓矢のあま

御代

つまよつて。三毒のぬむりさ。あや  
ろくあらせし明王の弓矢を<sup>持</sup>て。  
いんやうの<sup>母</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>は</sup>せ<sup>り</sup>。されば  
五大明王の文殊のやうゆうと<sup>現</sup>じて。  
ら<sup>は</sup>せ<sup>り</sup>して弓矢を<sup>復</sup>つ。<sup>スル</sup>あらせし  
の<sup>矢</sup>りて矢とあせ<sup>り</sup>又<sup>我</sup>朝の<sup>神</sup>  
功皇后を<sup>せ</sup>ら<sup>せ</sup>り<sup>げ</sup>ん<sup>じ</sup>と<sup>せ</sup>ら<sup>せ</sup>り

あつぞく民。もやうあや<sup>ら</sup>せ<sup>り</sup>た<sup>り</sup>。  
<sup>上</sup>慈神天皇の<sup>博</sup>大を<sup>さ</sup>つ<sup>つ</sup>。水と清<sup>き</sup>  
石清水流の<sup>末</sup>を<sup>さ</sup>ら<sup>せ</sup>り<sup>た</sup>れ

410  
116



昭和十六年一月十四日印刷  
昭和十六年一月十九日發行

著者

金春光太郎

印刷者

江島伊兵衛  
東京市京橋區銀座西六丁目三番地

發行所

わんや書店  
支店 東京市新宿驛前  
電話四谷 二五五六番  
東京市京橋區銀座西六丁目三番地  
振替東京 四一六三番  
電話銀座 六三八・六三九番

翁弓矢立合

定價金六十錢



終

